

国立病院機構熊本医療センター

No.167



くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

本年度も臨床研修医を迎えました

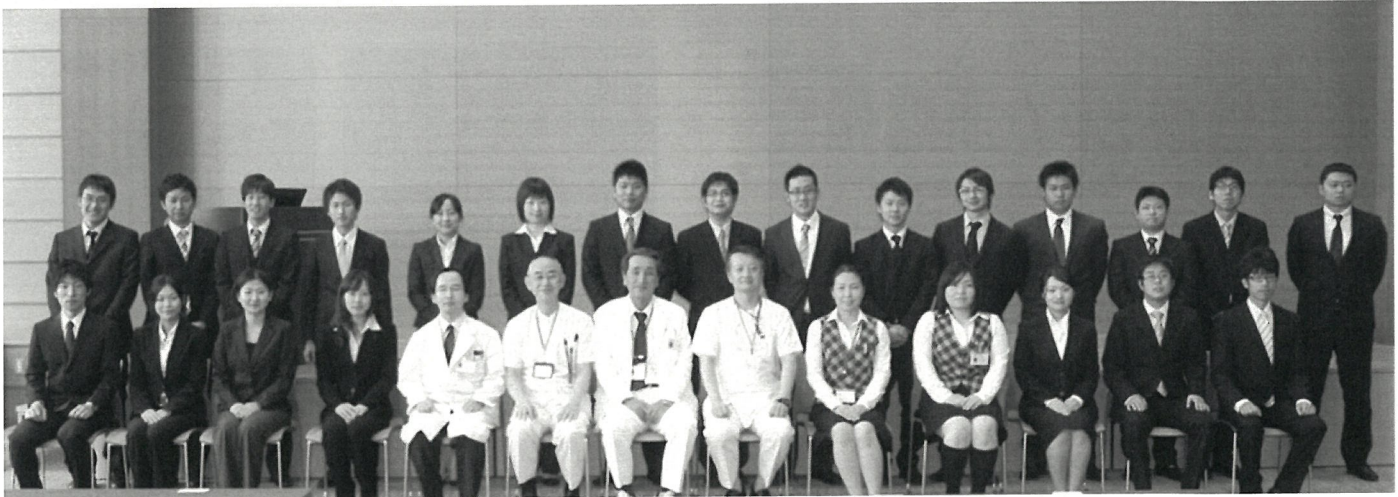


研修部長
清川 哲志

4月1日より多くの新採用のスタッフとともに、新研修医20名を迎えました。医師研修医18名と歯科研修医2名です。今年度は女性4名と数は少ないですが、オリエンテーションではしっかり男性をリードしていました。4月11日までの全体での病院実習が終了し、ローテーションを開始しております。一年次は2ヶ月毎に外科系（外科、救命、麻酔）と3つの内科医分野をローテーションします。昨年か

ら内科系と外科系を交互に組んでおります。これは、早く多くのスタッフに知り合いになってもらうためです。1年目の前半は「病院になれること」、「医師としてのライフスタイルになれること」が研修の目標となります。うまく飛び立てるように、ご支援お願いいたします。

オリエンテーションでは研修2年次は1年次に熱心に指導してもらいました。今年のチーフレジデントは福島先生、サブが本田、石貫先生で研修医全体をリードしてもらいます。すこし余裕のある2年次は自分の将来に向けて、専門性を高めていきます。宜しくご指導お願いいたします。



池井聡院長を中心に20名の新臨床研修医

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

VOICE

登録医の声

「病院紹介」

菊池郡市医師会立病院 院長 矢野 智彦



まず始めに、いつも快く患者さんを受け入れて頂いています熊本医療センターの先生方・スタッフの方々に感謝申し上げます。

私は菊池郡市医師会立病院に勤めています矢野と申します。先日別件で高橋毅先生と電話連絡の折、くまびょうNEWSに題は問わないから何か書いてほしいとのご命令を頂きました。書くことも苦手な私は絶句致しましたが、日頃から「困った時の高橋大明神頼み」で、どんな患者さんでも引き取って頂いており、ここは引き受けざるを得ないと、あきらめて筆を執ることにいたしました。当院を紹介する場

を頂いたことには重ねて感謝申し上げたいと思います。

さて、私も菊池郡市医師会立病院は、昭和40年の設立で、菊池市域の内科系の中核病院として、公的性格を持った病院です。一般病棟84床、医療療養26床、介護療養24床（平成24年より一般病床へ変換予定）、感染病床4床の計138床の病院です。医師会員の共同利用施設の役割を果たすことで、地域医療に貢献し、少しでもこの地域の方々に安心して頂ける患者さんに優しい病院を目指しています。常勤医は9名で、内科一般が守備範囲です。救急から慢性期までの診療を行っていますが、急性冠症候群や脳出血や血栓溶解療法相当の患者さん、外科適応も考慮される患者さん等は殆ど熊本医療センターを始め、熊本市内の救急病院に搬送しています。他に透析療法が特徴で、43床で100名弱の方々の透析を3クールおこなっています。リハビリもあります。PT 5名、OT 1名、ST 1名の小所帯です。回復期リハビリ病棟も視野に入れていますが、限界集落等、地域性の問題から、自宅への退院に困難な場合が多く、踏み切れないというのが実情です。院内のMSW 2名の他、医師会附設の居宅介護支援事業所に7名のケアマネもいて地域医療連携室にも力を入れ始めています。臨床検査部門を持っており、院内の検査の即応体制は整っています。また、医師会会員の先生方からの検査委託が多いのも特徴です。画像診断ではCTとMRI等に放射線科の常勤がいますので直ぐに診断でき助かっています。小児帯ではありませんが、内科全般を診れる病院だと自負しております。

現在当院は菊池市内の温泉街の奥まった所にあります。耐震化の問題から、387号線（熊本日田線）に沿った所で、菊池市街地の熊本市からの入口に当たる場所に新築移転の予定です。敷地面積は約6000坪で、平成24年の秋口には5階建ての新病院に引越すこととなります。

文末になりましたが、貴医療センターの益々のご発展とスタッフの皆様方のご健勝を祈念申し上げます。

災害医療チーム派遣報告

鶴田敏久（内科医長）、多森靖洋（外科医長）、益田洋子（6北副看護師長）、宮本瑠美（7東副看護師長）、志道邦彦（企画課）の5名は3月26日から31日の6日間（実働4日間）宮城県で医療活動を行ってきました。国立病院機構仙台医療センターを現地対策本部、宮城病院を活動拠点として、山元町地区の避難所6箇所（避難者約1200名）を担当いたしました。

山元町は宮城県の最南端の海沿いにあり、本来、海岸線には常磐線が走り、ストロベリーラインなど美しい光景が広がる町ですが、今回の震災で町の東側部分はほぼ消失しておりました。ライフラインでは電気は回復していましたが、下水道がほぼ壊滅状態であるため、上水道の回復にはかなりの時間が必要なようです。そのため避難者は生活スペースだけでなく、食事、歯磨き、トイレ、入浴など、日常の生活もかなり制限さ



曲がったレールとひっくり返った枕木（常磐線）



医療班メンバー



避難所での診療風景

れておりました。ガソリン不足で足が無いと、やむなく避難所生活をされている方も多くいらっしゃいました。

避難所では高齢者が多く、寝たきりの人も多くいらっしゃいました。殆どの方が風邪をひかれていますと言っても過言ではない状況で、インフルエンザも散発しておりました。私たちは熊本からの手持ちの医薬品に、仙台医療センターに前任者らが残っていたものを加えて、主に発熱など急性疾患の診療を行いました。少しずつ診療所や薬局なども開業されていましたが、医療機関自体も被災されているため、開業のメドも立たないところも多いようです。

自衛隊、各県の看護班、薬剤師、心のケアチーム、歯科診療チームなど多くの医療チームが活動を行っていましたが、今回の震災の被害は極めて広大な地域に渡るため、まだまだ不十分なようです。また、ライフラインや住居の確保による生活の安定が第一ですが、慢性疾患の管理はかなり乱れており、今後は心のケアを含めた慢性疾患に対する医療援助も重要と考えられます。（内科医長 鶴田 敏久）

病棟紹介〈3〉

5 南病棟

整形外科を主体に紹介入院および交通外傷など突発的に受傷した緊急入院の手術目的に治療を行っています。主な手術症例は、骨折の骨折合術を始め、脊椎手術・人工関節置換術・腱板修復術・関節鏡・下肢切断術などで、手術最高年齢は102歳で他部門との連携をはかり全身管理と感染防止に留意したケアを目指しています。新病院ではリハビリ室が同じフロアとなったことでリハビリ環境が充実しました。後方病院へは大腿骨頸部骨折は地域連携パスを使用して平均在院11日で転院し、シームレス医療が受けられるように病診連携の充実を図っています。また、重症個室3室、有料個室15室と増室され患者さまのニーズに応じて対応できるようになりました。

5南病棟師長 清田 峰子



整形外科病棟のスタッフ



ナースステーション



新人スタッフと



デイルーム



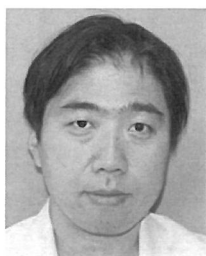
リハビリ室



リハビリの様子



有料個室



医長
大島 秀男
形成外科一般、先天異常
頭蓋顎顔面外科、熱傷
眼瞼・眼窩形成
マイクロサージャリー
日本形成外科学会専門医
日本熱傷学会専門医
初期臨床研修指導医

診療内容と特色

形成外科は今年で診療科開設6年をむかえました。熊本県内の総合病院では有数の形成外科を標榜する施設であり、平成17年度から日本形成外科学会教育関連施設、平成21年度から同認定施設となりました。現在3名で外来診療、手術、救急診療にあたっています。

形成外科で扱う分野には

- 1) 先天異常、2次的に生じた変形などの異常な形態を正常な形態にする（形を造る：形成外科）。口唇口蓋裂、小耳症、埋没耳、多指症・合指症など。
- 2) 外傷・熱傷、腫瘍切除などによる組織欠損の修復、現状回復をする（形を治す：再建外科）。顔面外傷・骨折、熱傷、腫瘍・母斑、顔面神経麻痺の表情再建、乳房再建など。
- 3) 正常な形態をさらに美しく修正する（形を変える：美容外科）。腋臭症、陥没乳頭、二重瞼、隆鼻など。

という3本柱があり、体表の形態異常、外傷全般の診療を幅広く行っています。手術においては先天異常、腫瘍・母斑、ケロイド瘢痕、眼瞼形成、四肢・頭頸部再建を主体に美容外科の手法も取り入れて「きれいに治す」ことを目指しています。特にケロイド瘢痕の治療では手術療法に放射線療法を併用し、極めて良好な成績が得られています。

最近が高齢化社会の為か、悪性腫瘍、難治性潰瘍や加齢性眼瞼下垂の患者様が増加しています。また顔面外傷・顔面骨骨折、熱傷などの救急医療にも力を入れています。



医師
万江 由希子
形成外科一般、熱傷
頭部顔面外傷、フットケア
日本形成外科学会



医師
釜田 いずみ
形成外科一般、熱傷
外傷外科
日本形成外科学会

診療実績/手術件数

平成22年

外来新患：802名、紹介率：79.9%

新入院患者：364名、平均在院日数：12.5日

手術件数：360件（他科再建手術、外来処置を除く）

研究実績

当科の臨床的研究テーマは創傷治癒と組織再生であり、これまで厚生科学ミレニアムプロジェクト「同種培養真皮による創傷治療の共同臨床研究」、国立病院機構共同臨床研究「効果的な幹細胞移植法」、国立病院機構大規模EBM研究「重症褥瘡Ⅲ度以上に対する局所治療・ケアの適切性に関する研究」に取り組み、その成果を国立病院総合医学会などで発表してきました。

ご案内

外来診療は月、火、木、金の午後、大島、万江、釜田が担当しています。春休み、夏休みは就学児童の手術が集中する為、早めの御来院、御予約をお勧めしています。患者様の御紹介は直接お電話、ファックスを頂いても、患者様に紹介状を託して受診して頂いても結構です。時間外、救急診療はon call体制で対応しています。またスキンケアとしてQスイッチルビレーザーを導入し、シミ・アザのレーザー治療を行っております。

今後とも病診連携・病病連携を主体とした地域医療のネットワークの中でより良い医療を提供できるよう努力していく所存ですので、あらためて一層の御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

医学シリーズ No. 178

呼吸器内科 (No. 5)

最近のトピックス

治療薬が肺癌患者を選ぶ時代になりました

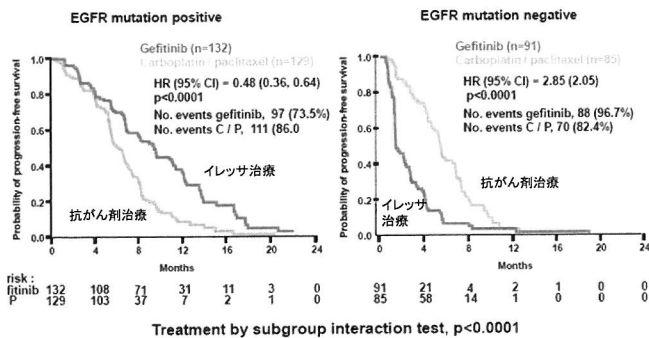


呼吸器内科医長
柏原 光介

長い間、原発性肺癌の治療は小細胞癌と非小細胞癌の二つの方法に分けられて行われてきました。肺小細胞癌は抗がん剤の治療効果が高いにもかかわらず再燃しやすい予後不良の肺癌です。一方で、非小細胞癌とは小細胞癌以外の扁平上皮癌、腺癌、大細胞癌の集合体であり、組織型の違いには着目されずに同じ抗がん剤治療が行われてきました。ところが肺癌治療の世界に大きな変革が訪れます。

分子標的薬剤（本来はこれも抗がん剤ですが、今日は分けて述べます）、イレッサの登場です。イレッサは本来細胞増殖や転移を起こすシグナルを遮断する薬剤であり癌細胞の殺傷能力はないと思われていました。ところが臨床試験が行われると見事に肺癌が縮小する特定の患者さんが存在することがわかったのです。東洋人・女性・肺腺癌の条件を満たす患者群、これらの患者さんは後にEGFR（上皮成長因子受容体）遺伝子に変異を持つ方々と判明しました。加えてIPASS試験においてイレッサはEGFR遺伝子変異陰性の患者さんでは効果がなく抗がん剤治療にも劣ることが証明されました（表1）。

(表1)

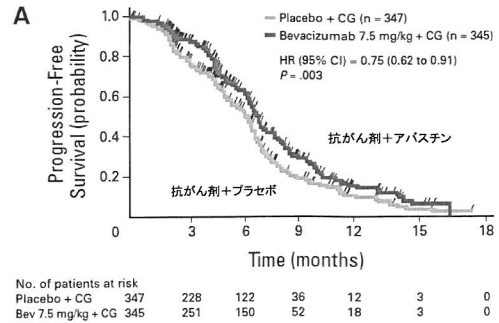


(Mok TS. N Engl J Med 2009;361:947 改編)

アバスチンも分子標的薬剤です。アバスチンは血管新生阻害剤であり癌細胞の増殖や転移に重要な栄養血管の新生を抑制します。イレッサのように薬が著効する集団がある訳ではありませんが、抗がん剤と併用することで上乗せ効果があることが証明されました。た

だしAVAiL試験において肺扁平上皮癌では治療効果が低く咯血死の合併症が多いことが報告されています（表2）。

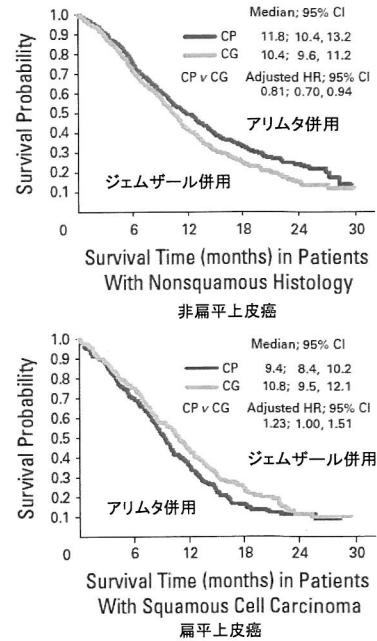
(表2)



(Reck M. J Clin Oncol 2009; 27: 2415 改編)

アリムタは新しく開発された葉酸拮抗剤であり所謂抗がん剤です。今までの抗がん剤は非小細胞癌というグループ内で使用されていたことはお話ししましたが、この薬は違いました。アリムタも扁平上皮癌に効かないことがわかったのです（表3）。

(表3)



(Scagliotti S. J Clin Oncol 2008; 26:3543 改編)

イレッサ、アバスチン、アリムタの共通点は扁平上皮癌に効きにくいということであり「非扁平上皮癌」という新しい概念が生まれたのです。肺扁平上皮癌は喫煙者に多いタイプの肺癌であり、喫煙者にとって、高いタバコを買って吸って（命を削って税金を払って）肺癌になっても治療方法も限られる時代が到来しました。やはり禁煙が大事です。なおイレッサ、アバスチン、アリムタによる最新治療のご依頼は当院呼吸器内科まで。

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ53回

「臨地実習における看護学生のコミュニケーション能力の分析と実習教育の考察」

看護学校 田上美香子



【はじめに】

近年、看護学生のコミュニケーション能力の低下、特にあいさつや報告・連絡・相談などといった対人関係成立の基本が身につけていない看護学生が増加しているといわれています。この対人関係成立の基本的な技術や態度は、専門職業人として必要不可欠なスキルであり、将来、看護職として患者だけでなく、さまざまな職種との対人関係を調整するためには身につけておく必要があると考えます。

臨地実習においても、看護学生にとって患者だけでなく、さまざまな職種との対人関係を調整する能力が求められ、それを学習する場でもあります。また、臨床の看護師との関わりは、後の看護学生のコミュニケーション能力や対人関係調整力の向上につながり、看護に対する前向きな態度形成など、学生に対して大きな影響を与えると考えます。

そこで、看護学生の臨地実習における看護師とのコミュニケーション能力の現状について明らかにし、それよりコミュニケーション能力を向上させるための、教育環境や具体的な指導内容について考察することを目的として研究に取り組みました。

本研究では、対人関係を円滑に営む能力；コミュニケーションスキルを社会的スキル（菊池2007）として据えました。

【研究方法】

研究デザイン：質的研究（一部量的研究）

研究対象：看護学生25名（A看護学校）

看護学生の看護師とのコミュニケーションに関する体験（円滑と感じた体験、困難と感じた体験）は、それぞれ、意味内容が類似した言葉を集約、グループ化し分類名をつけました。菊池の社会的スキルKiss-18尺度（Kikuchi's Social Skill Scale・18項目版）は、平均点を算出し先行研究との比較を行うとともに、Kiss-18尺度の高い学生と低い学生の2群に分け、Mann-WhitneyのU検定を実施し、有意差を確認しました。

【結果】

看護学生が看護師とのコミュニケーションで円滑に感じた状況は、5つのカテゴリーに分類されました（表1）。さらに困難に感じた状況は、7つのカテゴリーに分類されました（表2）。

Kiss-18尺度総得点の平均値は57.08であり、6要素毎の得点結果は、「高度のスキル」が最も高く、「感情処理のスキル」が最も低い結果となり（表3）、2群間の6要素の差は全てに有意差がみられました。（ $p < 0.05$ ）

【考察】

A看護学校看護学生の社会的スキルは、ほぼ標準的な集団であったが、「感情処理のスキル」の得点が低く自分の感情や気持ちを表現する能力は弱い傾向にあり、対人関係に困難をきたす原因にもなりうる可能性が示唆されました。一人一人看護学生のコミュニケーションスキルには個人差があることを認識し、学生個々に合った関わりを臨床と学校が連携しながら学生指導に関わっていく必要があると考えます。

（表1） コミュニケーション円滑状況

分類名	件数
看護師の適切な助言・指導	22
看護学生の能力を肯定する態度	12
受容的・共感的態度	10
看護学生を気遣う態度	9
関心を持って接する態度	4

（表2） コミュニケーション困難状況

分類名	件数
状況に対する適応力の未熟さ	30
看護師の看護学生受け入れに対する認識不足	20
不慣れから生じる困難	19
看護師の煩雑業務から受ける反応	17
相手の態度・反応から看護学生が想像する困難度	16
コミュニケーションの結果生じる看護学生のネガティブな感情・気持ち	9
看護学生の看護師への先入観による困難性	88

（表3） 社会的スキル（Kiss-18）尺度における得点

要素	平均得点と標準偏差（n=25） （A看護学校学生の得点）		平均得点と標準偏差（n=71） （*一般的な大学看護学部学生の得点）	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差
初歩的なスキル	9.52	±2.17	9.69	±2.45
高度のスキル	10.16	±2.15	9.96	±2.05
感情処理のスキル	9.20	±2.17	9.90	±2.04
攻撃に代わるスキル	9.24	±2.10	9.47	±2.12
ストレスを処理するスキ	9.60	±2.04	9.63	±1.72
計画のスキル	9.36	±1.80	9.94	±2.37
合計	57.08	±10.42	58.61	±8.05

* * 大学生女子の平均値（合計）・・・58.35（n=121）

* * 短大生女子の平均値（合計）・・・56.81（n=112）

注）* 野崎ら（2002）による研究対象者

* * 菊池（1988）による研究対象者

新任職員紹介



心臓血管外科

た なか むつ お
田 中 睦 郎

この度、心臓血管外科へ配属となりました田中睦郎です。5年前の旧病院時代に半年間勤務しております。

した。

ただ今回は新病院となっていますので不安を感じていましたが、以前一緒に勤務していた先生方もまだ何人か籍しておられ安心して仕事に望めそうです。

実力不十分ではありますが「心は熱く・篤く、頭は冷静に、行動は迅速に、日々向学」を肝に銘じ仕事に励みます。よろしくお願いいたします。



消化器内科

こ ばやし たて あき
小 林 起 秋

平成23年4月1日付で消化器内科勤務となりました小林起秋と申します。

平成16年3月に宮崎医科大学を卒業後、熊本大学医学部附属病院にて初期研修を終え、関東で各科レジデントとして研修しておりました。しかし、専門科決定

に関して悩んでおりましたところ、恩師である熊本大学附属病院消化器内科櫻井宏一先生の御指導もあり、同医局へと入局させて頂きました。以降は同大学病院、熊本赤十字病院を経て当センター配属となった次第です。

診療では「誠意」と「謙虚さ」を大切にしています。当センターの消化器診療において微力ながら貢献出来ればと思っております。

今後先生方には何かと御迷惑をお掛けする事もあるかと思いますが、御指導御鞭撻の程を何卒宜しくお願い致します。



眼科

つ つ い じゅんいちろう
筒 井 順 一 郎

4月より当センター眼科への勤務となりました筒井です。

大学病院では主に角膜疾患の診療に当たった後、熊本中央病院、熊本労災病院勤務では、一般眼科診療に従事してきました。

労災病院では3年近く一人医長で過ごせた為、眼科教科書に載る多くの疾患を診る機会に恵まれ、診断、治療を決める経験が積めたと思います。当センターでは1つでも多くのことを患者さん、病院へ還元出来る様頑張る所存です。

ただ心配な事は、一方向からのみの見かたでは、随分と独善的な判断に成っていたのではないかとのことです。幸い今回は上司また後輩と三人での診療体制ですので、小さな事でも相談しながら多くを吸収し、多角的に診る力が養えればと個人的には期待しています。



麻酔科

こ ばやし か おり
小 林 加 織

平成23年4月より麻酔科勤務となりました小林加織と申します。

熊本大学を卒業し、熊本大学と熊本労災病院で2年間初期研修を終えた後、昨年熊本大学麻酔科に入局し大学病院で1年間勤務しました。大学病院では予定一

般の麻酔を主として各科の麻酔を担当しました。

当センターでは緊急手術が数多く行われていると聞いています。大学病院では主に予定手術が多い病院でしたので、緊急手術には慣れていない部分が多く、不安を抱えています。外科系の先生方には大変ご迷惑をおかけすると思いますが、御指導・御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

新しい環境に早く慣れて、地域医療に貢献できるように頑張りたいと思います。1年間どうぞよろしくお願いいたします。

新任職員紹介



糖尿病・内分泌内科
嶋田 さやか

平成23年4月より糖尿病・内分泌内科へ勤務することとなりました嶋田さやかと申します。平成20年3月に宮崎大学医学部を卒業後、1年目は熊本医療センターで、2年目は熊本大学病院で卒後研修を行いました。

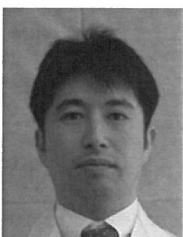
平成22年4月より熊本大学代謝・内分泌内科へ入局し1年間熊本大学病院で勤務しました。研修医の時も当院で様々な症例や救急疾患を経験させていただきましたが、今回も代謝内分泌内科医として熊本医療センターでしか学べないような多くのこと吸収し、救急医療にも少しでも貢献できればと思っております。前回勤務時とは病院も一新しておりとまどう面もありますが、私も気持ちを新たに精一杯頑張っていきたいと思いません。皆様にはご迷惑をおかけすると思いますが、ご指導の程よろしくお願いいたします。



消化器内科
田島 知 明

平成23年4月より消化器内科勤務となりました田島知明と申します。平成20年3月に久留米大学医学部を卒業し、同年4月からは熊本大学医学部附属病院と球磨郡公立多良木病院にて初期研修を行ないました。平成22年4月から熊本大学消化器内科に入局し一年間の後期研修の後、国立病院機構熊本医療センターへの異

動となりました。熊本を代表する救急病院での勤務となることに、正直不安の方が大きいですが、これまでの研修3年間での経験を生かし、それにさらに磨きをかけられるよう日々努力していこうと思っております。4月から心機一転、新しい病院での勤務となるわけですが、医師としても4年目と未熟であり、さらに新しくなった病院で右も左もわからず慌てふためく自分が思い浮かびますが、消化器内科の先生方をはじめ、他科の先生方、コメディカル、スタッフの方々いろいろなご指導をいただきながら日々成長していけたらと思っております。学生時代の部活で養った体力と明るさでこれからも頑張っていきますので、ご指導・ご鞭撻の程どうぞ宜しくお願い致します。



歯科口腔外科
河野 道 直

平成23年4月より歯科・口腔外科勤務となりました河野通直と申します。

平成19年3月に臨床研修修了後、九州歯科大学大学

院に入学しました。口腔外科を専攻し、骨の分化促進機能を中心に研究させて頂きました。大学院修了後、熊本医療センターに勤務させていただくこととなりました。病院に勤務されるスタッフの皆さんと協力して診療にあたるよう努めて参りたいと考えています。

また、電子カルテなどの初めて経験するシステムもありますが、少しでも早く先生方のお役に立てるよう微力ながら頑張っていく所存です。今後とも宜しくお願い申し上げます。



歯科口腔外科
高尾 真 暢

平成23年4月より歯科・口腔外科に勤務となりました高尾真暢と申します。平成18年4月に九州歯科大学口腔顎顔面外科学講座に入局し、この春に大学院を修了しました。大学院では、関節炎モデルを用いて炎症

性サイトカインの抑制メカニズムに関する研究を行いました。卒後6年目にしまして、まだまだ学生気分が抜けてないとよく言われますが、心機一転、諸先生方のご指導のもと臨床に励みたいと思う次第です。また、単科大学から総合病院勤務ということで、その環境を活かして積極的に他科の先生方とも交流を持っていきたいと思えます。微力ながら、熊本医療センターの発展に寄与するために頑張っていく所存ですので、今後ともよろしく申し上げます。

研修のご案内

第102回 総合症例検討会(CPC)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成23年5月11日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ:『慢性腎不全透析中に呼吸不全をきたした症例』

(70歳代 男性)

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター救急科

山田 周

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理研究室長

村山 寿彦

「透析中の患者が呼吸不全にて緊急入院となった」

*臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー(解説)の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通)

第12回 症状・疾患別シリーズ(会員制)

[日本医師会生涯教育講座2.5単位認定]

日時▶平成23年5月14日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長:熊本市医師会

松本 孝一先生

演題:「静脈疾患」

1. 外科適応となる静脈疾患

国立病院機構熊本医療センター心臓血管外科医長

岡本 実

2. 肺塞栓症、深部静脈血栓症

国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長

藤本 和輝

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費10,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

第148回 月曜会(無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成23年5月16日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例検討「最近経験した髄膜炎」

国立病院機構熊本医療センター神経内科

幸崎弥之助

4. ミニレクチャー「血液疾患での最近の新薬」

国立病院機構熊本医療センター血液内科

樋口 悠介

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第111回 救急症例検討会(無料)

日時▶平成23年5月25日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「腹痛」

国立病院機構熊本医療センター外科部長

片瀨 茂

国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長

杉 和洋

国立病院機構熊本医療センター産婦人科部長

三森 寛幸

国立病院機構熊本医療センター泌尿器科医長

菊川 浩明

救急救命士、救急隊員を含めた全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通)

2011年

研修日程表

5月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

5月	研修センターホール	研修室	その他
2日(月)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
6日(金)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1
9日(月)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
10日(火)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~17:00 外科術前症例検討会 C1 17:00~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
11日(水)	19:00~20:30 第102回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「慢性腎不全透析中に呼吸不全をきたした症例」		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
12日(木)		18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)	7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
13日(金)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1
14日(土)	15:00~17:30 第12回 症状・疾患別シリーズ [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 熊本市医師会 松本 孝一 「静脈疾患」 1. 外科適応となる静脈疾患 国立病院機構熊本医療センター心臓血管外科医長 岡本 実 2. 肺塞栓症、深部静脈血栓症 国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 藤本 和輝		
16日(月)	19:00~20:30 第148回 月例会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座 単位認定]		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
17日(火)	18:00~19:30 第56回 くすりの勉強会(公開)		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
18日(水)	18:30~20:00 第68回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルパス研究会(公開)		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
19日(木)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
20日(金)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1
21日(土)	9:00~12:00 楽しく学ぶ基礎看護研修 「現場で役立つ感染防止の基本と実践」 14:00~16:00 第229回 滅菌消毒法講座 「洗浄の基礎〜洗浄剤から評価まで〜」		
23日(月)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
24日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
25日(水)	18:30~20:00 第111回 救急症例検討会 「腹痛」		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
26日(木)	18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
27日(金)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1
30日(月)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
31日(火)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手 手術室
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター 2階 地域医療研修センター
TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)